

續本朝通鑑に云ふ。後伏見天皇正安元年春三月。龜山天皇以遠江初倉莊・加賀小坂莊・筑前宗像莊寄附南禪寺。但後以播磨別名・大鹽莊・但馬池寺莊代・小坂莊。とあり。按ずるに、右庄園を寄附し給ふ事は、天下南禪寺記に、本寺庄田者、遠江國初倉・加賀國小坂庄、播磨國矢野・別名・同國大鹽庄、但馬國池寺、已上、小坂替筑前國宗像庄。右盡未來際被寄附當寺畢。縱雖高岸成深谷・滄海變桑田、不可有改易者也。子孫宜守吾本志願、雖有加増不可減少者也。永仁七年己亥三月五日佛子金剛眼御判并御朱印。佛子金剛眼は太上皇の御密號。と記載せり。されば續通鑑に載せたる趣は、林氏の誤文なるべし。さて此の庄園初めは南禪寺の領なりしかど、後筑前宗像庄とかへしめられ、小坂庄は大和國春日神社へ寄附し給へり。康正二年造内裏段錢國役引付に、四貫九百廿文春日社領加州小坂庄西方段錢と見ゆ、春日社家日記に、永正十八年正月一日以來御神事日記目六條々事。加賀國小坂庄御供備進之事。とありて、今金澤山上町なる春日社は、いにしへ春日の神領にてありし頃勸請せし神社なる事知られけり。此の地邊は即ち小坂庄内なり。故に今は

小坂神社と稱す。改作所舊記に載せたる、元祿十六年四月舊藩五世參議中將綱紀卿金澤市中郷庄の地所穿鑿を命ぜられし時、邑長よりの言上書に、山上村・談議所村・卯辰村・大衆免村・淺野中嶋村、右村々領之内淺野川を限つて大樋町端迄金澤入込有之村々、淺野川より下小坂之庄に而御座候。とあり。郷庄別村名帳に、河北郡小坂庄淺野村・同中嶋村・乙丸村・大衆免村・神宮寺村・卯辰村・山上村・談議所村・大樋村・三池村・小坂村・定田村・神谷内村・御所村・長屋村・夕日寺村・傳燈寺村・牧村・小二又村・清水村・南原村・新保村・戸室別所村、以上二十三村を庄内とす。其の地甚だ廣く、實にそのかみ庄園たりし頃大庄なりしこと知られけり。按ずるに、尊卑分脉大系圖に、源頼義の弟井上三郎頼季の子孫時田九郎義遠の子小坂太郎光頼、其の子小坂三郎政義、其の子小坂小三郎長頼とある小坂氏は、若しは加賀小坂庄の地頭職ならんか。寛永八年山崎長門家士下田牛兵衛高名書に、親下田喜之助、佐久間玄蕃當國打入之時、玄蕃内・富永十右衛門と申者と鍵を合、首を取候。此證據人小坂源左衛門と申者に御座候。と載せたり。

○小坂神社遺蹟

此の社は、小坂村の氏神にて、往昔は今中町なる紙屋庄三郎の宅地にありしかど、金澤市中建て廣がり、村落大樋口へ移轉の頃、神社も今の社地へ移轉し、跡地は悉く町地と成りたるよし、紅粉屋伊六と云ふ者の家記に載せたりと淺野茂枝云へり。右神社は今祭神を天照皇大神、相殿に日吉神を祭り、俗に小坂山王と呼べり。従前は卯辰八幡の神官厚見氏の持社にて、延喜式神名帳に載せられし加賀郡野間神社是なりといへれど、その徵證は詳ならず。按ずるに、野間神社は、朝野群載卷六に載せたる康和五年六月十日神祇官御體御卜奏に、坐・加賀國音生石部神・野間神・多太神云々。社司等依・遇穢神事崇給、遣使科中祓、可令被清奉仕事と見たれば、往古は神官も居たりしこといぢるし。惣國風土記にも、加賀郡玉弋郷野間神社。圭田三十三東三宇田。所祭豐若陽靈貴也。齊明天皇二年丙辰九月。始奉・圭田・加神體。有神家巫戸等。と載せたり。

○紙屋庄三郎傳

金澤家柄町人の一人にて、當町草創以來の舊家也。享保八

年沙門古仙が撰びたる靜家庵主行狀に云ふ。居士姓中田氏。其先世事尾州侯。至曾祖父長直法名宗榮。辭祿橋京師紙屋川畔。居亡何到加州而隱市中。後爲太守所知、遂免市中役。家于金澤也云々。初宗榮遊于越後州。感得觀音大士小金像於海濱。隨身供養。自時厥後家日多祥。而遂至巨富者。皆大士慈愍之所致也。其像而今鎮家。敬禮奉持無有間斷矣。また越前永平寺白龍和尚の撰びたる紙屋德庵畫像の贊にも、左の如く載せたり。長文なりといへども、全文を記載す。

舊志曰。人死精神不滅。隨復受形。所行善惡。後生皆有報應。所貴行善。以煉其精神。夫居士精神不滅。行善有報。其苗裔受之續之繁茂者。盡是居士眞形之顯然。而積善餘慶種福回報以不空也。居士會遊越海。感得觀音大士小金像於砂際。而隨身供養。居士積信。大士應感。福聚如海。四世相傳者。堅牢藏中水火災劫不能傷焉。經中所謂。父母持戒布施忍辱。子亦爾。是爲福子。則居士之行持以可見。世各福子。各孝子。如青之出藍。今願居士生質。如盛珍寶於大。小囊與之。則道人取小囊得白珠。而其至誠不食。澹泊無